参考資料１

令和２年度第２回　広島県総合教育会議（8/25）　主な意見【概要】

１ 総論

主な意見
全体所感
○　現大綱の重要な理念を踏襲しつつ，学校のデジタル環境の整備や個別最適な学び，教員の働き方改革など，広島県だけでなく全国的に着手できていない課題に対して，積極的に取り組む姿勢を打ち出したことは，素晴らしい。素案全体を通して，よくまとまっている。 ○　大綱全体の感想として，「ＨＯＷ」は素晴らしいが，育成したい人材像をもう少しクリアにすべき。社会を回す人だけでなく，広島県として未来を創る人「異人」を育てるという意識をもっと打ち出した方が良いのではないか。 ○　現大綱もそうだが，記載内容が社会的な観点の側面が非常に強いことから，個人の観点からの教育の意義が分かる記載を加えた方が良いのではないか。 ○　ヒューマンセンタードな世界からネイチャーセンタードな世界，こうした視点をもつ子供たちを育成していくことが重要。このため，個の能力を伸ばす際には，社会について考え，社会を伸ばしていくという視点に及ぶような記載に工夫してはどうか。
５　教育を取り巻く社会情勢の変化等
○　貯蓄がない世帯が３分の１もおり，極端な格差が生まれつつあり，貧困の再生産，拡大のループを断ち切ることが重要であることから，貧困問題について，記載してはどうか。 ○　医療的ケアの必要な子供たちが増えている。こういう子供たちを取りこぼさないといった趣旨を加えたらどうか。 ○　極めて長寿の時代を迎え，20 歳余りまでの教育だけでは，今後の社会が立ち行かなくなるため，人間がコンスタントにアップデートできる社会にしていくことが重要である。 ○　ウィズコロナ社会が当面続くと考え，一定以上の開放性と疎の状態を保つことが必要であり，こうした社会では，通信インフラや高速端末はライフラインに等しい。 ○　新型コロナウイルス感染症による社会情勢の変化を踏まえると，今後，学校における学び方に加えて，教え方についても考えていくことが必要ではないか。
６　本県教育の基本理念・目指す姿
○　これからの未来の鍵となるのは，夢を描き，複数の領域をつないで形にできるような「異人」である。すでにできた社会を回す人も大事だが，「枠に収まらず，突き抜けた人材」のような未来を変えられる人間が必要である。 ○　データ×ＡＩを解き放つ力としては，データサイエンス力，データエンジニアリング力，ビジネス力の３つのスキルが必要。全てを使いこなすだけの力を身に付けることまでは求めないが，最低限のレベルは備えるべき。 ○　デジタルリテラシーの一番のポイントは，数理素養をしっかりと培うことである。数学やサイエンスが嫌いな子供が育たないようにしなければならない。 ○　デジタルリテラシーの育成にあたっては，しっかりとした目的と倫理観を持ち，デジタルを活用できる人材を育成していくことが必要ではないか。

主な意見
７　取組の方向
○　広島県のこれからの教育では，子供たちが教室の中で机の前に座って，一方向的に黒板を見たり，教科書を読んで，学ぶというスタイルを変えていくということをはっきり示した方が良いのではないか。 ○　広島県の教育を良くしていくためには，行政だけではなく，民間の力も活用していくことが重要である。

２ 各論

主な意見
全体所感
○　各論で掲げる内容は素晴らしいが，これらの実現にあたっては，各担当部局の縦割りではなく，各論が互いにつながって，統合されているということが重要ではないか。
１　乳幼児期における質の高い教育・保育の推進
○　子どもたちに学ぶ力をつけていくためには，小学校入学前から手当てすることが大事。 ・　学校で学習することを先んじてするということではなく，家庭や園所での日常生活の中で，言葉の力と考える力の両方を身に付けることが最も大切である。特に，子供は大人との日常的なやり取りや遊びを通じて，学ぶものであり，こうした考え方について，園所を通じて，保護者への啓蒙や支援につなげていくことができると良いのではないか。 ○　現大綱に記載している「県内すべての乳幼児が養育環境に関わらず」という表現は引き続き大事なポイントであることから，次期大綱でも残していただきたい。
柱２　「主体的な学び」を促す教育活動の推進による，これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成
○　自ら学ぶ力がある子供は，様々な素材を活用して，どんどん学ぶことができるものである。 ・　主体的な学びには階層があり，ＩＣＡＰモデルの，一番下「Passive」の状態では，教員がいくら分かりやすく授業動画を作って，子供に視聴させても，子供には何も残らない。 ・　オンライン，オフラインいずれでも，子供たちを，「Interactive」，「Constructive」な状態にしていくことが重要である。
柱３　一人一人の多様な個性・能力をさらに生かし，他者と協働しながら新たな価値を創造していくことができる力の育成
○　「異人」としての才能があり，芽がある子供たち，いわゆるアウトライヤー的な人たちの逃げ場，遊び場のようなファブ（fab）を作り，このような場所でＭＯＯＣや反転学習のような学びをやっていくと良いのではないか。 ○　時間の枠，空間の枠を広げていくことで，子どもたちの学び方を自由にしていくことが，これからの時代には必要ではないか。 ○　小柱「多様な価値観の受容」のところで，言葉が十分ではなくても，感受性のある小学校低学年から，リモートによる海外の子供たちの異文化間交流を通じて，国際的な感覚も醸成できると考えられることから，文言を「生徒」から「児童生徒」にしてはどうか。
柱４　今後の社会経済環境の変化に対応できる高度な資質・能力を有する人材の育成
○　大学段階でＳＴＥＡＭ教育について触れているが，高等学校段階から理系に対するアレルギーのない教育というのをもう少し意識した記載にしていただきたい。

主な意見
柱５　教育上特別な配慮を必要とする児童生徒等への支援
○　児童生徒の一人一人の個性に合わせた学びを打ち出す中で，学習進度の把握や，子供が何をやりたいか，どういったことが好きかということも大切であるが，子供のつまずきの要因をきちんと明らかにすることも大切である。 ○　モバイル端末の活用など，誰もが身近にＩＣＴを活用することについて，触れられていないが，外部の機器と併せて人間の能力を発揮するハイブリディアンという考え方を踏まえた記載を加えてはどうか。 　例えば，計算が苦手な子は電卓を使えば良いといったように，ＩＣＴで機能を代替することを肯定的に書いてはどうか。
柱６　教職員の力を最大限に発揮できる環境の整備
○　子供たちの学びを支える教職員が本当に生き生きと働くことができるよう，教職員の職務環境を改善していくことが重要である。 ○　大綱に教師がファシリテーターとしての役割があるときっちり書いていることは良いが，これを実現していくためには相応の専門知識が必要である。
柱７　安全・安心な教育環境の構築
○　デジタル機器は，災害対応も踏まえた上でも大事であることから，そうした記載を盛り込んでも良いのではないか。 ○　生徒指導体制等に係る記載が安全のための生徒指導のように読めるので，生徒に寄り添うことを意識した生徒指導といった記載となるよう工夫してはどうか。
柱８　生涯にわたって学び続けるための環境づくり
○　社会教育施設に触れているが，博物館も社会教育施設の一つとして重要な施設であることから，加えていただきたい。

３ その他

主な意見
○　大綱素案に「デジタルリテラシー」や「ファシリテーション」，「リカレント教育」など，カタカナ語や専門用語があるが，これらの言葉になじみのない県民の方が分かるように，工夫をした方が良いのではないか。